

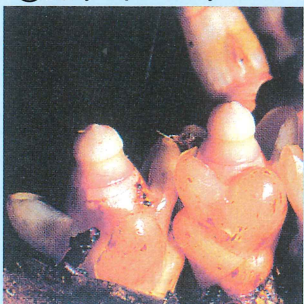
突 喰 周 辺

②1 突喰浦の化石連痕／国指定



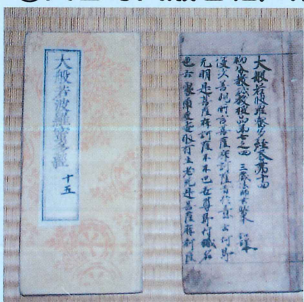
地質時代の新生代古第三紀(3～4千万年前)頃、この地域は海底にあり、絶えず土砂が陸地から海へ運びこまれ、海底に模様を作って積み重なり化石となった。その後地殻変動が起き陸地となり、現在の状態になった。露出面積の広大なことは他に例がなく、学術上重要である。

②2 鈴ヶ峰のヤッコソウ発生地／国指定



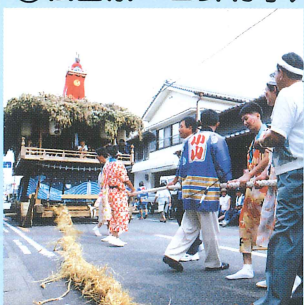
鈴ヶ峰の元円通寺観音堂境内一帯はシイ主体の樹木でおおわれ、椎の根に寄生するヤッコソウの群生が各所で見られる。また、日本産ではまれな熱帯性植物が数多く繁茂し、珍しい腐生植物がある。ヤッコソウは熱帯植物で、世界で四種類が知られ、本県海陽町がその北限である。

②3 大日寺大般若経／県指定



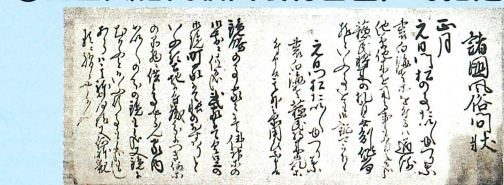
突喰浦の大日寺が所蔵し、鎌倉時代初期の建永元年から建保年間(1206～1218)にかけて、僧重慶が願主となり、筆写された鎌倉本522帖と、江戸時代に補充された黄檗本(版経)47帖がある。本県には鎌倉時代初期の大般若経は数少なく、歴史的、学術的にも価値の高いものである。

②4 祇園祭の山鉾行事／県指定



7月17日、八坂神社の祇園祭に山鉾が巡行する。山鉾は大山さん、小山さんの大小二台あり、屋根は柴で葺き、中央に太い長い柱が立ち、大山の柱に柱男という木偶、小山に大雄刀が取り付けられる。以前は山鉾にお能の囃子方が乗り、笛、太鼓、鼓等ではやしなから曳いた。

②5 諸国風俗問状突喰村答書／町指定



多田稔氏所蔵。文政元年(1818)9月、江戸幕府の命により阿波藩が庶民生活、風俗習慣等を尋ねた問状に対し、与頭庄屋多田本左衛門が差し出した答書。現存するものは珍しく、県内では石井町高川原の旧庄屋、坂東為七氏宅のものがあるが、全国的にも数少ない民俗資料である。

②6 石仏、山越阿弥陀来迎図／町指定



戦国時代、長宗我部氏の家臣で突喰城代だった野中氏の一族の野中助兵衛が、逆修供養のために建立した。天正18年(1590)2月15日の銘がある。阿州宛昨長福寺(現願行寺)栄伝の作である。鎌倉様式を表した図柄は見事なものであり、当時の突喰の繁盛を証するものである。

②7 突喰古墳／町指定



現在の県民グランド造成前の山に築かれた6世紀頃の前古墳で、現在地に移設された。横穴式石室の玄室一部が残る。石室の石は砂岩で、長さ約7m、幅2.6mの長方形に配置し、奥壁に2枚の砂岩を用いる。直刀、須恵器、土師器が出土したという。本町の後期古墳の一例である。

②8 震潮記／町指定



田井晴代氏所蔵の地震の古記録。安政2年(1855)11月5日、与頭庄屋田井税伯(寛内)が、永正、慶長、宝永、安政の地震、津波等による突喰浦を中心とした災害を、克明に記録したもの。近年その発生が予想されている南海地震に備える上からも極めて貴重な民俗資料である。

②9 竹枝双雀鏡／町指定



岸治定雄氏所蔵、町教育委員会保管。鎌倉時代の銅鏡で、塩深の大山神社僧坊跡から出土した。直径10.7cm。大山神社は広大な社地に12の僧坊を持ち、阿波海部郡、土佐安芸郡住民の信仰の中心として栄えた。天明3年(1783)の大火で当時の社殿も僧坊も宝物全てを焼失した。

③0 長宗我部親房(島弥九郎)鎮魂碑／町指定



島弥九郎の直系17代長宗我部親房が島弥九郎と家来の霊を慰めるため、那佐の吉野神社境内に鎮魂碑を平成14年(2002)4月6日に建立した。「吹くは風ばかり月も無し 嵐の奈佐浦に 闘い逝きし 主従三十人 久しき時をへて いまみるこの海は 静なり穏やかなり 友親」

海陽町文化財マップ



国指定天然記念物 突喰浦の化石連痕

問い合わせ連絡先

阿波海南文化村 海陽町立博物館

〒775-0202 徳島県海部郡海陽町四方原字杉谷73

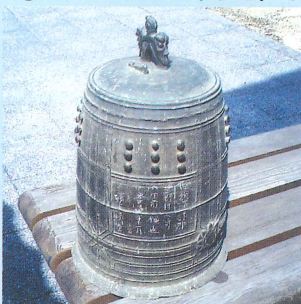
TEL 0884-73-4080 / FAX 0884-74-3504

休館日／月曜日(但し祝祭日の場合翌日)・年末年始

平成19年10月1日 海陽町教育委員会発行

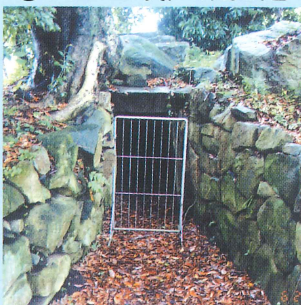
海南周辺

①御崎神社の梵鐘／県指定



高さ41.1cm、口径27cmの小型の鐘で、青銅でできている。乳と呼ばれる突起が全部で36個あり、ひとつも脱落がない。梵鐘の銘には「永享四年十一月」の紀年が刻まれ、1432年、室町時代の製作と分かる。現存する徳島県内最古の梵鐘である。海陽町立博物館に展示している。

②大里古墳／県指定



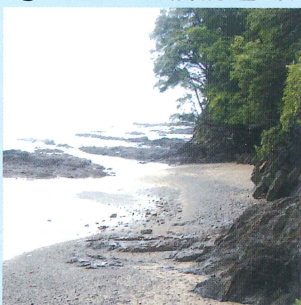
6世紀末から7世紀初めにかけて造られた古墳で、直径20m、高さ4～5mの円墳である。墳丘の内部に横穴式石室を設け、那佐湾周辺の那佐石が使われている。海部川下流域周辺の有力な海部（あまべ）の長を葬った古墳であろうと考えられる。県史跡第1号に指定された。

③蛇王のウバメガシ樹林／県指定



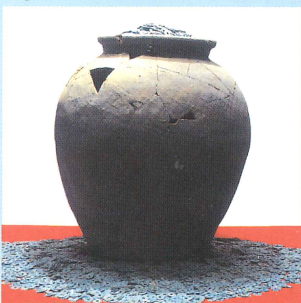
蛇王神社の森一帯にひろがるウバメガシ樹林は、昔から魚の保護や繁殖のための魚付保安林として保護されてきた。そのため、古いウバメガシがそのまま残された自然樹林を形成している。ウバメガシは西日本に広く分布する照葉樹林帯の植物で、備長炭の原料として知られる。

④加島の堆積構造群露頭／県指定



浅川湾の北岸にある加島の北側海岸と海中の地層の表面には、太古の時代にできた水流や古生物の生態を示す底痕が化石となって残っている。新生代古第三紀(2,400万～6,500万年前)の地層で、ここでは底痕を含む堆積構造全般が見られる。現地は潮が引くとよく観察できる。

⑤大里古銭七万枚と甕一／町指定



昭和54年(1979)、新築工事現場での掘削中に発見された。掘り出された大甕には総数70,088枚の銅銭が入っていた。主に宋銭など中国で造られた渡来銭が大半である。南北朝時代(14c後半)頃の埋蔵銭とみられ、数は四国一である。甕と共に町立博物館に展示、保管している。

⑥エノキの板根／町指定



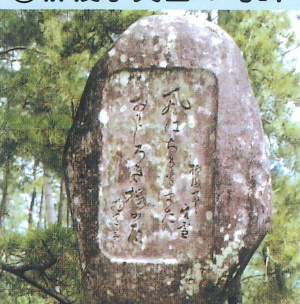
このエノキは幹周が地上1.3mのところで3mあり、根が地上に浮き上がり板のようになっている。それで板根といわれ、たいへん珍しい。根の幅(高さ)は幹に近いところで1.1mある。板根で有名なのは西表島のサキシマバナズボウという熱帯性植物で、幅は3m以上もある。

⑦石造弥勒菩薩坐像



承和2年(835)3月21日に世を去った弘法大師空海の一千年季の供養として、天保5年(1834)に造立された県下一大い弥勒菩薩坐像である。像高127cm、花崗岩製で、総高は320cm。穏和なお顔に優美な作風を示す。四国路有数の大石仏として、四国遍路に親しまれてきた。

⑧柳後亭其雪の句碑



海南中学校体育館の前、松林にある。海陽町大里出身の江戸時代後期の俳人。京都の芭蕉の法会に招かれ、病身を省みず旅に出、その時の「風に散るもまたおもしろき桜かな」が辞世の句となった。隣りに海部郡代高木真蔵(思風)の「松原や凡そ一里の蟬の声」の句碑が並ぶ。

⑨刀匠海部氏吉之碑



海部刀工は南北朝から戦国を経て江戸時代の末期に至るまで、海部川流域に鍛冶場を造り、多数の個性豊かな海部刀を製作した。この地が刀匠海部氏吉発祥の地である。海部刀工は氏吉・泰吉・氏次・氏重・氏宗等60数人余。近くの笹無谷に刀匠海部氏吉とおんばの伝説が残る。

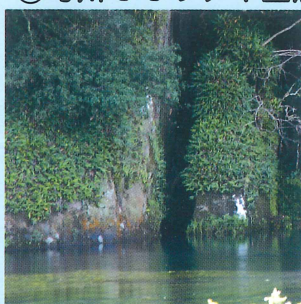
⑩覚成寺の銅造懸仏残欠と神像



6個の懸仏残欠は神像群と共に「藤原さん」と呼ばれ、覚成寺の隣りに鎮座する杉尾神社(旧村社)に祀られていたものという。「藤原さん」の通称は、当地の中世の豪族海部氏が本姓を藤原と称したことによる。鎌倉期にさかのぼる、海部氏の信仰形態を知る貴重な資料である。

海部周辺

⑪母川オオウナギ生息地／国指定



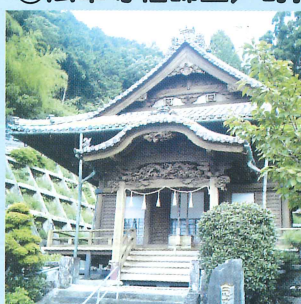
南方に生息するウナギで、体長1.5m～2m、胴回り40～60cm、体重10～16kgになる。沖縄や鹿児島県に多い。母川のオオウナギは古くから知られ、小魚や虫類、カニを好み、カニクイとも呼ばれていた。酒岩(裂岩、せりわり岩ともいう)周辺の指定地は禁漁区にしている。

⑫ヤッコソウ自生北限地／県指定



ヤッコソウはシイ(椎)の根に寄生し、四国以南に見られる。花茎は5～7cm、多肉質で乳白色、10月から11月にかけて開花する。花茎の形が奴人形に似ていることから牧野富太郎博士が名づけた。ここ明現神社境内のヤッコソウは、世界のヤッコソウ科の北限になっている。

⑬法華寺祖師堂／町指定



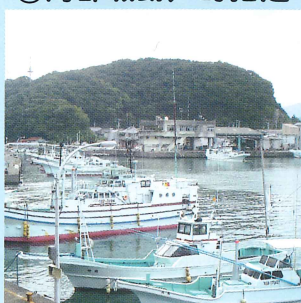
吉祥山法華寺は、鞆の日蓮さんと呼ばれる名刹である。文久3年(1863)建立の祖師堂は、総ケヤキの壮麗な楼閣造りで、正面の彫刻は県内まれにみる見事な竜の彫り物である。周辺は鞆浦漁港からつづく典型的な漁村景観がひろがり、ミセ造りが多く残る鞆浦の町並みが見られる。

⑭大岩供養碑／町指定



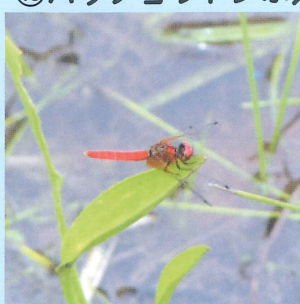
慶長9年(1604)12月16日、宝永4年(1707)10月4日の二度の大津波の記録と遭難者供養の碑。大岩は高さ約3.2m、幅約5mで、丸い自然石に彫る。中央に慶長地震津波の碑文が、右手に宝永地震津波の碑文が刻みこまれている。供養碑の左には地藏尊を安置するお堂がある。

⑮海部城跡／町指定



永禄(1558年)年間に海部友光が築いたという海部氏の居城である。天正3年(1575)土佐軍、同13年(1585)豊臣軍に攻められ、二度落城した。後阿波藩九城の一つ鞆城となり、寛永14年(1637)一国一城制で廃城した。池田の大西城と共に隣国土佐への備えとして重要視された。

⑯ハッチョウトンボ／町指定



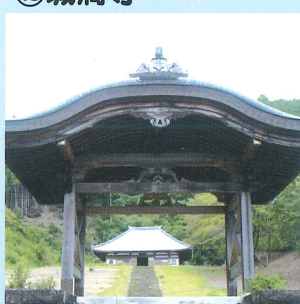
ハッチョウトンボは、トンボ目トンボ科ハッチョウトンボ属に属する日本で最小のトンボである。体長は20mmほどである。世界でも最も小さな部類に属する種類である。幼虫(ヤゴ)も体長9mmと非常に小さい。和名のハッチョウは、名古屋市矢田鉄砲場八丁目に由来するとされている。

⑰ツチトリモチ／町指定



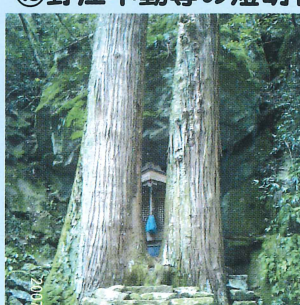
ハイノキ類の根に寄生する多年草で、高さは5～10cm。海部川支流の母川の上流柳川に鎮座する杉尾神社境内の根方に、秋になると赤い卵形の花をつける。人家の近くに自生している例はたいへん珍しく、本州、四国、九州に分布し、花は10月から12月下旬まで見られる。

⑱城満寺



吉田の城満寺は鎌倉時代の永仁4年(1296)、瑩山禅師が開いた四国最古の曹洞宗寺院である。戦国争乱で焼失、廃寺同然となったが、戸田吾雄禅師、渡辺頼応禅師、大槻哲也禅師の復興努力が実り、平成9年、広大な寺域の整備と本堂が完成した。現在、座禅堂を建設中である。

⑲野江不動尊の燈明杉



野江の波切不動尊の前に並ぶ老杉2本で、落ちかかった巨岩を支えた形を保ち、伝説を生んでいる。弘法大師が大岩の前に杉箸2本を立てたところ大木に成長した話や、海から出た燈明が大杉の梢に飛んで来て七晩光った話等。樹齢百年以上と推測され、目通り周3.7mに及ぶ。

⑳幕末志士海部閑六翁顕彰碑



明治維新の大政治家、岩倉具視の護衛として活躍。文政6年(1823)、野江村の庄屋岡沢閑兵衛の五男に生まれ、柔・剣・槍・角力の特技に物をいわせ、凶刃から岩倉公の身を護った。明治11年(1878)第二徳島丸の沈没事故で56歳の生涯を閉じた。野江に、出生地の石碑が建っている。

海陽町文化財マップ

至平井・轟の滝

1



鯖大師
さばせ

八坂八浜

浅川湾

4

浅川

7

3

6

阿波海南文化村博物館

10

海部川

18

17

16

19

11

20

かいふ

5

2

12

15

14

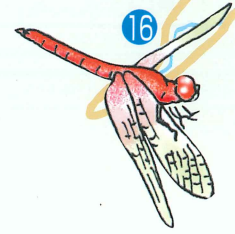
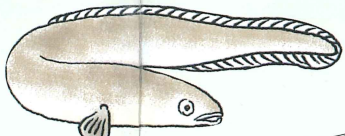
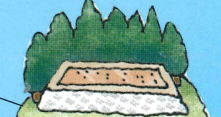
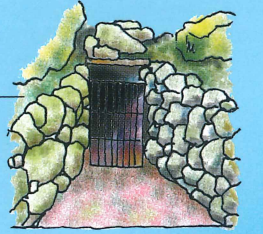
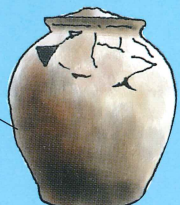
13

遊遊NASA

あわかいなん
海陽町役場



8



9



至徳島

R55

JR牟岐線

R193



文化財名称／所在地

無印は原則通年見学可 ◆は見学季節等限定 ★は問い合わせ必要

- ① 御崎神社の梵鐘／若松字土平 御崎神社（海陽町立博物館保管）
- ② 大里古墳／大里字浜崎
- ③ 蛇王のウバメガシ樹林／浅川字ヒムロ谷
- ④ 加島の堆積構造群露頭／浅川字鍛冶屋
- ⑤ 大里古銭七万枚と甕一／大里字浜崎（海陽町立博物館保管）
- ⑥ エノキの板根／大里字五反田
- ⑦ 石造弥勒菩薩坐像／浅川字大田
- ⑧ 柳後亭其雪の句碑／大里字松原
- ⑨ 刀匠海部氏吉之碑／相川字笹無谷
- ★⑩ 覚成寺の銅造懸仏残欠と神像／吉野 覚成寺

- ⑪ 母川オオウナギ生息地／高園 通称裂ヶ岩上下流13町、上流側13町より13町以内
- ◆⑫ ヤッコソウ自生北限地／奥浦 明現山 明現神社境内
- ⑬ 法華寺祖師堂／靱浦 法華寺
- ⑭ 大岩供養碑／靱浦
- ⑮ 海部城跡／靱浦
- ◆⑯ ハッチョウトンボ／中山 トンボ公園
- ◆⑰ ツチトリモチ／櫛川 杉尾神社社寺
- ⑱ 城満寺／吉田
- ⑲ 野江不動尊の燈明杉／野江
- ⑳ 幕末志士海部閑六翁顕彰碑／高園

- ㉑ 穴喰浦の化石漣痕／穴喰浦字古目
- ◆㉒ 鈴ヶ峰のヤッコソウ発生地／久保字板取
- ★㉓ 大日寺大般若経／穴喰浦 大日寺
- ◆㉔ 祇園祭の山鉾行事／久保 八坂神社
- ★㉕ 諸国風俗問状穴喰村答書／久保 多田家
- ㉖ 石仏、山越阿弥陀来迎図／穴喰浦 願行寺
- ㉗ 穴喰古墳／久保 県民グラウンド(野球場横)
- ★㉘ 震潮記／穴喰浦 田井家
- ㉙ 竹枝双雀鏡／塩深 大山神社（海陽町教育委員会穴喰分室保管）
- ③⑩ 長宗我部親房(島弥九郎)鎮魂碑／那佐 吉野神社